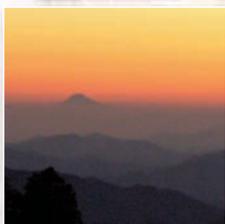


美しく風格のある奈良の創造



奈良県

景観計画

概要版



 奈良県

平成 21 年 5 月



奈良県
景観計画
概要版



目次



はじめに..... 2

I 景観特性と景観づくりの基本目標 3

1 景観の特性..... 3

2 景観づくりの基本目標 4

II 景観計画の区域 5

1 景観計画区域 5

2 重点景観形成区域 5

III 景観計画の区域における良好な景観の形成に関する方針 7

1 景観計画区域..... 7

2 重点景観形成区域 10

IV 景観計画の区域における行為の制限に関する事項 11

1 届出の必要な行為 11

2 景観形成の基準 13

V 届出手続き 18

1 届出フロー図 18

2 届出添付書類 裏表紙

はじめに

奈良県は、世界に誇る多くの歴史文化遺産と、それらと一体をなす歴史的風土と豊かな自然環境に恵まれた地であり、これらの歴史的風土など人々の営みとを調和させようとするたゆまない努力によって美しい景観が守り育てられてきたところです。他方、奈良県においては、戦後になって都市化が急速に進み、北部地域は近畿圏においても有数の住宅市街地を形成しています。

このようななかで、近年、駅前や都市郊外の幹線道路沿道などにおいて、派手な色彩や目を引く外観の建物が建ち並び、屋外広告物が氾濫するなど、全国どこにでもあるような雑然とした景観がみられることも現実です。また、農山村においても過疎の進行や都市化の影響により、集落と農地・山林が調和した景観が失われつつあります。

こうしたなか、平成16年6月に「景観法」が成立し、12月に施行され、自治体にとって景観行政を進める上での法的な後ろ盾ができ、自らの裁量による取組が可能となりました。これにより、県内において景観法に基づく「景観行政団体」が誕生するなど、自治体の関心はもとより、景観に対する県民の意識も高まりつつあります。

今こそ私たちは、風格や潤い、活力が感じられる本県の個性豊かな美しい景観が、生活する人々の心と生活を豊かにしていること、またその優れた景観を体験するために国内はもとより世界の各地から多くの人々が訪れていることを再認識しなければなりません。そうした認識の上に立って、奈良にふさわしい良好な景観を守り、創り育て、活用するよう努めていかなければなりません。

ここに、県民・事業者・行政の適切な役割分担と協働により、本県の景観を美しく風格のあるものとし、これを次世代に引き継いでいくため、奈良県景観計画を定めました。

この「奈良県景観計画概要版」は、奈良県景観計画の概要をわかりやすくまとめたものです。

I 景観特性と景観づくりの基本目標

1 景観の特性

地域区分

▶ 大和平野地域

北部低地帯の西部に位置する大和平野地域は、大和平野とその四周を取り囲む金剛山や生駒山、矢田丘陵、平城山丘陵、若草山、竜王山、三輪山、多武峰、高取山など低くならかな稜線を形づくる標高600m～800mの山々や標高500m程度の丘陵地（以下「青垣」という。）とその裾野に広がるならかな山の辺により形成されています。

▶ 大和高原地域

北部低地帯の東部に位置する大和高原地域は「青垣」から続く高原地域が広がり、東南部の室生火山群から高見山地にかけては岩壁群や奇岩、溪谷などの個性的な地形により形成されています。

▶ 五條・吉野地域

南部吉野山地に位置する五條・吉野地域は、県土面積の半分以上を占めており、標高1,000m～1,900mの台高山脈、大峰山脈、伯母子山地の3つの山脈が連なり、その間に流れる吉野川、北山川、十津川がつくり出す深い溪谷により形成されています。また、北西部では、吉野川が大きく蛇行しており、河岸段丘が発達した地形が形成されています。



図 I-1 地域区分図

地域の景観特性

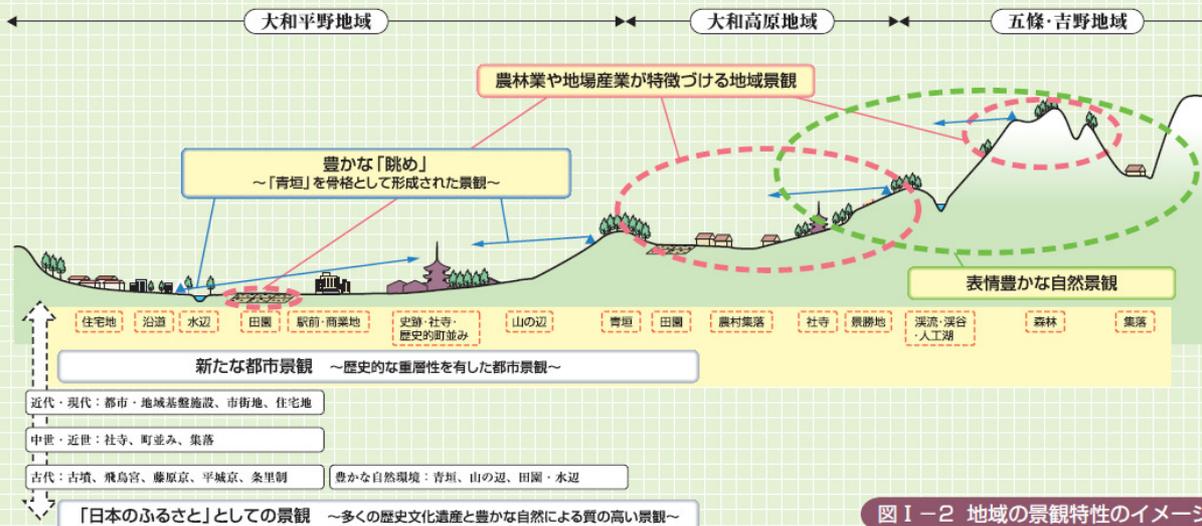


図 I-2 地域の景観特性のイメージ図

1 「日本のふるさと」としての景観 ～多くの歴史文化遺産と豊かな自然による質の高い景観～

本県はかつて飛鳥宮、藤原京、平城京の都が置かれ、日本の政治・経済・文化の中心地として栄えていました。また、本県の3つの世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」、「古都奈良の文化財」、「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめ、多くの古墳や陵墓、寺社の存在は、日本の歴史のなかでも重要なものとして広く認められています。

近世に発達した城下町や寺内町、商家町などの歴史的な市街地、中世以来の環濠集落などの農業集落や水田、ため池、そして古代以前から存在する「青垣」をはじめとする山々や河川の豊かな自然など、本県の県土は様々な時代の多彩な景観資源によって構成されており、「日本のふるさと」と呼ぶにふさわしい質の高い景観が形成されています。



2 豊かな「眺め」 ～「青垣」を骨格として形成された景観～

「大和は 国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる 大和しうるわし」と古事記に謳われたように、大和平野を囲む「青垣」の山々や緑豊かな丘陵は、奈良の景観の重要な骨格を形成しています。

この「青垣」の山々や、それを背景とした「山の辺」に位置する古墳、寺社などの景観資源を、平野部に広がる遮へい物の少ない水田や集落などを通して、「低地」から見渡すことのできる「眺め」の豊かさが、奈良の特徴となっています。

また、「青垣」の山々や丘陵は、同時に大和平野全体を見渡す「高み」からの「眺め」を確保する場所であり、このような見る場と見せる場の相互性、その視点場の豊かさも奈良における景観の特徴です。また、大和高原地域、五條・吉野地域においても、のどかに広がる高原の「眺め」や溪谷などの雄大な自然の「眺め」、山頂や山々を結ぶ参詣道などの「高み」からの「眺め」など、多くの優れた眺望の場が存在します。